善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善　正　寺
TEL:0593-31-1670
FAX:0593-32-0733

掲示板法話

病苦、老苦もお念仏の中に吸収される
仏法は苦悩の中に生きて働く

親鸞聖人が越後から関東の地に布教開始されてから、八百年。この節目の年に、本願寺ではお代替わりが行われました。若き二十五代の専如ご門主の時代の幕開けです。

新しいご門主さまは法統継承式後の記者会見で、厳しい社会情勢の変化を見据えて、「個別の悩み、悲しみに応じた布教、伝道」の大切さを述べられました。地縁、血縁などの共同体が崩壊しつつある社会の中で孤立しがちな人々に御同朋御同行として寄り添う姿勢を訴えられました。私も引退された前門さまと同年齢のせいか、「老苦」を感じるようになりました。友人の入院、急死。視力の低下で免許証を返上した友人など・・・。

でもお同行さんに教えられ、「よき先輩」に教えられる喜びも老境ならではのものです。毎月亡き奥様の命日にお参りさせて頂くおじいさん（九十三歳）は表面的に見れば、まさに数々の老苦を背負っておられます。

第一に、長年連れ添った奥様を二十七年間介護されたのち、お別れになり、今は嫁いだ娘さんの家にお住まいです。第二に、七年以上前から人工透析を受ける身になり、一日おきの透析は朝九時から午後三時まで六時間もかかり、その日は通院時間を含めればほぼ一日がかり。透析の注射針は２か所刺すため、腕はボロボロのような状態です。第三に、長く住み慣れた地を離れて引っ越してこられたので、近くに同年輩の友人もいません。恐らく「愚痴」を言う相手も見当たりません。

しかし、毎月お参りの時、このおじいさんから「愚痴」らしいことを聞いたことがありません。お経が始まると一緒に唱和されますが、途中の区切りのところでおりんを打ちますと、力強いお念仏の声が何度も聞こえます。二十七年に及ぶ奥様の介護体験談は素晴らしいもので、「決して寝ダコを作らないよう十二分に手当てしました」とのことで、それはホームページで公開し、地域の社会福祉協議会で講演依頼が殺到したほどです。それを私が誉めたところ、手を振って否定され、「長年苦労かけた連れ合いの介護など当たり前のことをしただけです」と涙声で合掌、お念仏されました。介護の苦労も病苦も老苦もすべてお念仏の中に吸収され、収められているのだなあ、と拝まずにおれません。「おじいさん、ありがとう。よいお手本です」とお礼申しつつお参りさせて頂いています。

ご法義地、北陸が生んだこのおじいさんの生き抜く力の源泉はお念仏の教えです。仏法は苦悩の人生の真っただ中に生きて働いているのですね。

☆行事ご案内☆

７月の門信徒会例会

７月２０日（日）夜７時半

① 本願寺・法統継承式のご披露；新たな伝道の視点
② 音楽法要の解説、ご和讃の練習と解説、味わい

◇**キッズサンガ**　7月5日（土）午後4時お経ゲーム、鐘つき
◇**三重組コーラス**7月14日（月）午後智積西勝寺様で練習

善正寺ホームページ「**三重　善正寺**」で検索. トップページの左欄「善正寺だより」をクリック、ファイルを開くと1年分の寺報が閲覧。毎日更新の「**住職と坊守のつれづれ日記**」が大好評。寺の日常を公開
開設5年11か月で14万7千訪問、コメント、悩み相談、大歓迎！

◇『**一縁会テレホン法話**』０５９・３５４・１４５４へ電話
１５冊目の新刊本『お念仏申してごらん』発売中８００円
７月４日善正寺の吹き込みは若院、坊守も参加、お楽しみに！

※**新納骨堂が完成**！経堂をリニューアルしてご要望の多い新納骨堂として活用、総会後一般公開、お問い合わせは寺まで
※**新役員決定**！門信徒会長伊崎武男氏、会計舘勤氏、婦人部会長舘正子氏、新年度三重組連研受講者・服部則男氏
※親鸞聖人７５０回大遠忌法要、平成２８年5月１５日に決定！
２年後に迫りましたが、皆様の熱意とご協力の結集で、意義あるご法要にしましょう！
☆『**三重組十三日講**』
７月３日（木）午前・午後、西阿倉川　浄覚寺様

新納骨堂内部

公開法座のお参り風景

５時の鐘つきの子供達

孫と御文章拝読

坊守スケッチ

人は人を救えるのか？

お寺にいると、様々な悩みを抱えた人が相談に来る。その一人一人に真剣に向き合っていると、私は相手が望むような応対をしたのかと疑問に思うことがある。お金のない人にはお金を工面したわけでもなく、人間関係に悩む人には、関係が改善したわけでもない。病気の人には、適切な医療を施したわけでもない。以前重い病気を患った人が「あなたは健康だからそんな暢気なことが言える。私の苦しみを少しも分かっていない！」と反論された。確かに健康な私は、相手の事を分かったつもりで、お説教で聞きかじったこと上から目線で紹介しただけだった。

先日『教誨師』（堀川惠子著）という本を読んだ。僧侶ならば一読する値打ちのあるおススメ本だ。教誨師とは、受刑者が改善更生し社会復帰をすることを支援する仕事。親の愛情や人との出会いに恵まれることなく、誰一人諌めることもなく行き着くところまで行った受刑者達。中でも死刑囚の教誨は一番深刻で難しい。本の中で一番印象に残った事を紹介しよう。

死刑執行の当日、刑務官に囲まれた死刑囚が白い枠の上に連れていかれた。突然上半身だけクルッと振り向き「先生、私に引導を渡して下さい」と必死の形相で叫んだ。一人の教誨師がスッと前に進み出て、互いの鼻がくっ付くほどに間合いを詰め、両肩を掴んで力を込めて腹の底から言った。

「よおっし、行きますぞ！死ぬんじゃないぞ、生まれ変わるのだぞ！喝」

「そうですか、先生、生まれ変わるのですね」。蒼白な顔からスッと恐怖の色だけが抜けた。「そうだ。あんたが少し先に往くけど、私も後から往きますぞ」。・・・数秒後白い布で隠された顔には、潤んだ目にほんの少しだけ笑みが浮かんでいるように見えた。

浄土真宗にはもちろん引導という言葉はない。しかし死にゆく人に、これほど的確に投げかけた言葉があるだろうか？この教誨師さんの度胸、懐の深さ、慈悲の心に感動した。私はいざという時に、相手の懐にズバッと入り込んで安心させる言葉を持ち合わせているだろうか？とかく教科書的に仏教語を並べて、口先だけの体裁を整えているのではないだろうか？

親鸞聖人は『歎異抄』の中で「この世に生きている間は、どれほど可哀想で気の毒だと思っても、人が人を救うことはできない。ただ念仏だけが真実で大いなる慈悲の心だ」と仰せになっている。『救われる』とは、命が助かるとか、窮状が改善するとかいう問題ではない。阿弥陀様に全てをお任せした時こそが救われる道だと納得した。

思えば私達もいつ終わるともしれない『いのち』を日々生きている。

ある日突然に最期の日を迎えようとも、慌てふためくことなく、毎日を精一杯生きたいものだ。

Eさんのいいもの紹介

☆我がり来て　人悪しくいふ人は
　また人がり行きて　我をそしる人

（幕末の歌人　橘曙覧の歌「私の所へ来て人の悪口をいう人は、人の所へ行けば私をそしる人」という意味）

※彼の歌で一躍有名になったのが、一九九四年クリントン大統領が天皇・皇后両陛下の前で演説に引用した歌。

☆楽しみは　朝起き出でて　昨日まで　無かりし花の　咲くを見る時

橘は『独楽吟』の歌集に「楽しみは」で始まり「時」で終わる歌を５２首収めている。身の回りの出来事をポジティブな観察眼で歌にする。私も見習って「楽しみは」で始まり「時」で終わる五七五の歌を作ろうかな？（坊守）

ホットニュース

☆５月２５日の総会後、新納骨堂を一般公開しました。個別納骨檀を２４基設置しました。お問い合わせは善正寺まで。見学もＯＫ。

☆６月からの新年度門信徒会会長に伊崎武男氏、会計に舘勤氏。女性部会長に舘正子様が選出されました。また新・三重組連研受講者を服部則男様にお願いしました。７月より毎月２７日夜連続１５回の講習が始まります。

☆６月５日、６日京都西本願寺では新しいご門主様誕生の「法統継承式」が勤まりました。第二四代即如門主（６８）が引退され、ご長男の第二五代専如門主（３６）が就任されました。ご門主様ご一家と我が家族は、住職、長男、孫までが同年齢です。浄土真宗本願寺派の新たなリーダーとして、お導き下さいますよう願っています。

☆カンパ有難う☆

山中つや子様、栗本洋子様、高橋智恵子様、他匿名様より頂戴しました。

【平成２６年度前半善正寺主な行事】

※８／２３（土）２４（日）『秋季永代経』（加藤正人師・桑名市）

※１１／２（日）午後と夜・３（月）午前と午後（仏婦主催）『報恩講』（大畠信隆師・大阪岸和田市）

※１１／２３午前秋勧進

※１２／６（土）夜『お内仏報恩講』

◇毎月第３日曜日夜７時半より例会

☆　編集子より　☆

「善正寺だより」２４７号をお届けします。◇サッカー・ワールドカップの開催されたブラジルでは治安が悪く、抗議デモが頻発。信号待ちの車が襲われる。熱狂の影に格差、不安、不信が恐怖を招く。安穏の世になるに何が必要か？◇お盆の季節は安穏と真実の平和への道に心を寄せる季節。合掌。

梅雨も瞬く間に過ぎ本格的な夏の到来です。経験したことのない暑さは、お年寄りや病人を直撃し、救急車で運ばれる人が続出しています。どうか熱中症にはくれぐれもご用心下さい。散歩中に聞いたNHKラジオで「心と心をつなぐケアシューズ」が紹介されました。四国讃岐市にあるシューズメーカーは、高齢者や障害者向けのオーダー靴を開発製造。全国シェア20%を占めどんな不況下にあっても業績は右肩上がり。成功の秘訣は、各消費者の要望に徹底的に応える製品作りと、社員の細やかで温かい心遣いにあります。客から寄せられたお礼状が何と2万通！商品発送には普通はパンフレットだけが同封されますが、当社は担当社員の手書き手紙を添えます。その一例「使い心地は如何ですかぜひこれを履いて外出して下さい。」そこで記念写真を一枚お送り下さい。私達の喜びであり励みになります。四国へお来しの節は案内しますのでお声をかけて下さい」。まるで旧知の間柄のような手紙。受け取った客は大いに感激します。「私の事を大切に思ってくれる人がいる」と親近感を持ち、靴以上に社員の真心が嬉しいのです。ケアシューズが結ぶ心と心の絆です。私の寺もぜひこの手法を学びたいと思いました。日頃から相手を思いやる細やかな気遣いや情報交換こそ、お寺を活性化させ良好な関係が生まれます。皆様のご要望ご意見を真摯に受け止め共に歩むお寺でありたいと願っています。ご協力よろしくお願いします。

合掌

平成二十六年七月　善正寺坊守拝